

科目名	ハーバード特別講義 I (疫学) ^(※)	選択	1 単位
-----	---------------------------------	----	------

科目責任者	Murray Mittleman 客員教授(※)
-------	--------------------------

配当年次	1～4年	配当学期	冬期	曜日・時限	4日間	授業方法	講義
------	------	------	----	-------	-----	------	----

1. 授業の概要

取り上げる主な主題には次のようなものがある。考え方は生物医学的・公衆衛生的論文の批判的精読を通して論じられる。

- ・疫学研究の解釈: 関連性と因果性の概念; 研究結果の別の角度からの説明(偶然、バイアス、交絡を含む); 因果成立の条件
- ・疫学研究デザインの方法: 各方法の特徴、長所、限界。記述研究、観察研究(症例対照研究、コホート研究)無作為化臨床試験
- ・疾病頻度の指標、関連の指標: 疾病頻度指標(有病率、累積発生率、罹患率)と関連指標(相対危険度、寄与危険度)の特徴及び指標の利用法・解釈・相互関係。
- ・スクリーニング: スクリーニングテストの有効性(感度、特異度); スクリーニング事業の有用性(適中度); スクリーニング事業の解釈におけるバイアスの原因

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 疫学は臨床や公衆衛生上の問題への量的な対処法を示す公衆衛生と臨床医学の基礎となる科学であることを理解し、基礎的な疫学の理論と方法を理解する。
2. 疫学を公衆衛生的課題評価にどう適用するか理解する。
3. 疫学的臨床論文の批判的精読の進め方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

1. 疾病のリスク要因である可能性のあるものを見つけ、検証するために疫学的な結果を解釈できる。
2. 疾患(アウトカム)の指標、関連の指標、研究デザインの選択、バイアス、交絡、効果の修飾などの疫学の基礎理論と方法を説明できる。
3. 公衆衛生や医学の論文を批判的に読み、現場での実務に利用できる。
4. 公衆衛生や临床上の問題に取り組む有効で効果的な手順を立案することができる。

3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、授業への積極的な関与で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

- ・Rothman KJ. Epidemiology: An Introduction (2nd ed.) New York, NY: Oxford University Press, 2012.

5. 参考書

- ・講義で紹介する。

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

ハーバード特別講義 I (疫学)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/13(水)	1	Murray Mittleman 教授(客)	導入と授業の目的 疫学研究の解釈: 関連と因果
2	1/13(水)	2	Murray Mittleman 教授(客)	疫学研究のデザイン法: 記述研究と分析研究の概要
3	1/14(木)	1	Murray Mittleman 教授(客)	疾患頻度の指標
4	1/14(木)	2	Murray Mittleman 教授(客)	関連の指標
5	1/15(金)	1	Murray Mittleman 教授(客)	介入研究: 無作為化臨床試験
6	1/15(金)	2	Murray Mittleman 教授(客)	特論 ・信頼区間 / ・効果修飾
7	1/16(土)	1	Murray Mittleman 教授(客)	疾患対策のためのスクリーニング
8	1/16(土)	2	Murray Mittleman 教授(客)	疫学研究の批判的検討